

船舶インシデント調査報告書

令和7年7月23日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

インシデント種類	運航不能（機関故障）
発生日時	令和6年11月12日 09時46分ごろ
発生場所	高知県須崎市ツツラ崎南南西方沖 白ノ鼻灯台から真方位210° 3.7海里付近 （概位 北緯33° 22.6′ 東経133° 25.5′）
インシデントの概要	プレジャーボート痛風丸は、航行中、船外機の運転ができなくなり運航不能となった。
インシデント調査の経過	令和6年12月6日、主管調査官（神戸事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート 痛風丸、5トン未満（長さ5.52m） 282-11812高知、個人所有 ガソリン機関、船外機、4サイクル、出力44.13kW、回転数毎分6,300、3気筒、ボア72.5mm、使用燃料ガソリン、機関製造年月日不詳、昭和63年3月進水
乗組員等に関する情報	船長、二級小型
負傷者	なし
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東北東、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏
インシデントの経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、知人2人を乗せ、釣りの目的で航行中、船外機の冷却水高温警報が鳴り、船外機が停止した。</p> <p>船長は、船外機の冷却水温度が下がるのを待って始動したところ、船外機は始動したが検水口から海水が出ていなかったため、航行を続けることはできないと判断して船外機を停止し、118番通報して救助を要請した。</p> <p>本船は、来援した巡視艇により係留地にえい航された。</p> <p>整備業者は、本インシデント後、本船の船外機を点検したところ、冷却水ポンプのゴム製インペラ（以下「本件インペラ」という。）の破損を認め、本件インペラを新替えて船外機が正常に作動することを確認した。</p> <p>船長は、約3年間陸揚げして保管されていた本船を令和6年9月に中古で購入後、本インシデント当日まで3～4回出航していて不具合等を感じていなかったため、本件インペラを点検したことはなく、また、本件インペラがいつ交換されたものか確認していなかった。</p>
分析	本船は、航行中、本件インペラが破損して冷却水が送水できなくなり、船外機が過熱し、運航不能となったものと考えられる。

	<p>本件インペラの交換履歴は不明であるが、船長が約３年間陸揚げ保管されていた本船を中古で購入した状況から、本件インペラは経年劣化していた可能性があると考えられる。</p> <p>船長は、これまでの航行中、不具合等を感じたことがなかったことから、本件インペラの点検を行っていなかったものと考えられる。</p>
原因	<p>本インシデントは、本船が、約３年間陸揚げ保管された状態において、船長が本件インペラの点検を行っていなかったため、航行中、本件インペラが経年劣化により破損して冷却水が送水できず、船外機が過熱して運転できなくなったことにより発生したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中古の船舶を購入した船長は、同船を航行させる前に船外機等の整備記録や取扱説明書の内容を確認して点検整備を実施し、機器等の状況に応じて部品等の新替えを行うこと。